SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

JAふじ伊豆はSDGs「1～17の目標」につながる取り組みを行っています。

各所に記載のマークはSDGs目標アイコンです。

ふじ伊豆トピックス

Fuji Izu Topics

管内生産者が品評会に多数入賞

酪農やシイタケ品評会で受賞

第56回静岡県ブラックアンドホワイトショウが3月1日に長泉町で、第44回静岡県乾椎茸箱物品評会が4月15日に伊豆市でそれぞれ行われ、管内生産者が最高位など多数入賞されました。4月4日、5日には御殿場市で2025セントラルジャパンホルスタインショウが開催され、当JA管内から6頭が出品されました。

各品評会の上位入賞者は次の皆さまです。

敬称略、(　)かっこ内は地区名

■第56回静岡県ブラックアンドホワイトショウ

リザーブインターミディエットチャンピオン
(経産の部・第8部出品牛)：大美伊豆牧場(伊豆の国)

■第44回静岡県乾椎茸箱物品評会

金1席・林野庁長官賞：小柳出 勝「上冬菇」(伊豆の国)
金2席・静岡県知事賞：桑名 二朗「大葉中肉」(伊豆の国)
金3席：小柳出 勝「大葉厚肉」(伊豆の国)
金4席：山田 勇「花冬菇」(伊豆の国)
金5席：石井 隆一「中葉厚肉」(伊豆の国)
金6席：堀江 富男「中葉中肉」(伊豆の国)

リザーブインターミディエットチャンピオンに輝いた
大美伊豆牧場の高橋さんご家族

林野庁長官賞の小柳出さんの乾シイタケ(左)
銘柄ごとに形状などを厳正に審査(右)

高温期対策技術を確立し出荷量確保へ

わさびサミット開催

意見を交わす生産者ら

JAは3月7日、わさびサミットを伊豆の国市で開き、本年度の産地振興計画の主な取り組みや夏秋期高温対策などを確認しました。管内の主要産地4地区のワサビ・ワサビ苗生産部会役員と髙木力常務をはじめJA役職員、経済連、県東部農林事務所の担当者ら32人が出席しました。

近年の夏秋期の酷暑で、定植苗不足や腐敗による生産ロスが課題となっています。そこで本年度新たに、管内全産地で高温対策資材を使用した実証試験を伊豆農業研究センターわさび生産技術科と共同で開始します。高温期対策の栽培技術確立と、耐暑性品種の調査やコールドチェーン(低温流通)化を推進し、出荷量確保と高品質化を目指します。

髙木常務は「現状の課題を洗い出し、営農部門だけでなく農業融資など金融部門でもサポートしていきたい」と話しました。

信頼される職員に

令和7年度入組式 新入職員42人が入組

4月1日、JAは沼津市本店で入組式を開き、新入職員42人が職員としての第一歩を踏み出しました。

梶毅組合長は「さまざまな能力を培って信頼される職員を目指してほしい」と激励。新入職員を代表し鈴木惇大職員が「期待に沿えるよう業務に精進します」と決意表明しました。式後には静岡第一テレビのアナウンサーを講師に招き、笑顔のこつや話し方のポイントなどを教わりました。

代表で決意表明する鈴木職員(左)

生産部会が抱える課題解決へ

営農アドバイザー 一人1課題発表報告会

JAは3月19日、営農アドバイザー　一人1課題発表報告会を開き、各地区から選ばれた営農アドバイザー8人が担当する作物の農業振興に向けた取り組みと成果を発表しました。

役員らが審査し、最優秀賞に三島函南地区営農販売課の佐野瑛海職員、優秀賞になんすん地区西浦みかん営農経済センターの関卓哉職員が輝きました。

最優秀賞の佐野職員(中央)と優秀賞の関職員(右)

新茶シーズン到来

初取引で富士地区から茶上場

今年も4月下旬から各地で新茶が販売されています。4月18日には、静岡茶市場で「新茶初取引」が行われ、当JAからは富士地区の良質な荒茶と和紅茶を上場しました。

茶市場では、今期から初めて入札販売も試行導入。金額を手書きした用紙を入札箱に札入れする取引で、幅広い買い手が取引に参加することができ、適正価格での落札が期待できます。

上場された富士地区の茶葉を確認する関係者ら

高校で金融教育の出張授業

県内JAで初開催

JAは2月の3日間、清水町にある県立沼津商業高校2年生約200人を対象に、資産形成などの地域金融教育の出張授業を行いました。

金融推進課職員が講師を務め、「ライフイベントとお金」をテーマに講義。人生の3大支出である教育・住宅・老後費用など生涯支出の平均額を示し、資産形成の必要性やNISA制度などについて説明しました。

生徒へ生涯支出について説明する金融推進課職員

米の生産量増加を目指して

乾田直播栽培用ドリルシーダーを導入

三島函南地区で水稲を栽培する南箱根大塚株式会社は、JAの助成事業「あぐりチャレンジ事業」を活用し、乾田直播栽培用の播種機（ドリルシーダー）を導入しました。

乾田直播栽培は水を張る前に種を落とす栽培方法で、水田栽培の作業時期をずらすことで作業の分散化を図り、人手不足解消につなげます。さらに、作業の効率化により栽培面積の拡大を目指します。

乾田直播栽培でドリルシーダーを活用

婦人部と合同で管理技術を共有

ハウスみかん部会が巡回

伊豆太陽地区のハウスみかんが、6月上旬から8月まで出荷最盛期を迎えます。

3月21日には、同地区ハウスみかん部会と同部会婦人部が合同で園地巡回を行いました。婦人部員は日頃から栽培管理を手伝っていて、今回の巡回では管理状況や栽培技術を共有し、活発な意見交換を行いました。規格の統一を徹底し、高品質なハウスみかんの生産に取り組んでいきます。

栽培管理の情報を共有する部会員と婦人部員

農産物の普及を目指す

農業大学校に13人が入校

御殿場地区営農課は4月8日、御殿場地区本部で第23期JAふじ伊豆農業大学校の開校式を開きました。

同校は、ファーマーズ御殿場出荷会員の増加や同地区の農産物の普及を目指して平成16年に開校しました。1年生はハウス、2年生は露地で年間約25回の実習を通して、野菜栽培の基礎を講師である同営農課の職員から学んでいきます。

JAから入校生（右）に参考図書を贈呈

アザミウマ対策に天敵製剤導入

イチゴ栽培での防除省力化や環境負荷軽減へ

富士宮苺部会は、「あぐりチャレンジ事業」を活用し、環境負荷の低い防除技術（IPM防除）の確立に向けて、アザミウマ対策のための天敵製剤「アカメ」を今期から導入しました。

アザミウマの食害による被害果を減らし、防除作業に費やしていた時間と労力を管理作業に有効活用できます。今後も抗体を作らせないローテーション防除の検討や減農薬栽培による品質向上を目指します。

天敵製剤を確認する生産者（左）と営農アドバイザー

ファーマーズでの販売へ

新規就農希望者に農作物の栽培講座

あいら伊豆営農経済センターは令和7年度農作物栽培講座を開始し、4月19日から野菜コース7人、5月10日から柑橘コースで8人が受講しています。

講座では、新規就農希望者や次世代の農業者などが、コースごと土作りや施肥・防除方法を学んでいます。ほ場での実習や優良園地の見学を通じて農業の知識や技術を習得し、いで湯っこ市場での農作物の販売を目指します。

職員（右）から夏野菜苗の栽培方法を学ぶ受講生

生産現場の声を国政へ

勝俣衆議院議員と果菜委員会が意見交換

当JAと伊豆の国果菜委員会は4月14日、勝俣孝明衆議院議員を招き、現地視察と意見交換を行いました。伊豆の国市のイチゴとミニトマトのハウスを訪れ、伊豆の国地区本部で意見交換を行いました。

生産者が高騰する生産コストと単価のギャップなど現状の課題を説明。農産物の適正価格形成に向けた法制化の協議において、生産者の意見反映や補助金制度新設などを要望しました。

ミニトマトのハウスで生産者の声を聞く勝俣議員（右から2人目）

富士市農産物のPR強化

富士市農業振興推進協議会で決議

富士市農業振興推進協議会は4月8日、富士市役所で第59回通常総会を開きました。松下尚之常務や長橋房良富士地区本部長などJA役職員も出席し、本年度の事業計画などを決議しました。

生産者・市・JAは、連携して地産地消をテーマに「富士山麓わくわくコーン」やカリフラワーなど同市の特産物のPR活動に取り組み、生産者の生産意欲と農業所得の向上を目指します。

小長井義正市長が議長となり協議

管理機導入で負担軽減と品質向上

2部会が合同で管理機講習会

沼津ねがた白ねぎ部会と長泉白葱部会は4月7日、沼津市のほ場で合同の管理機講習会を行いました。講師に、ねぎびとカンパニー代表取締役の清水寅氏らを招き、管理機の操作方法を学びました。

管理機は「あぐりチャレンジ事業」を活用し、新たに5台を導入。新管理機で、除草作業の省力化と病気の発生リスクを抑え、労力負担軽減と品質向上につなげます。

管理機の使用方法を学ぶ部会員ら